



のりまつ

校長 佐藤 哲也



学校教育目標

心豊かで自ら学び、たくましく生きる子どもの育成
くやさしく かしく たくましく

プール開き

6月23日(月)の3時間目に6年生の授業でプール開きを行いました。今年は2学期制になったこともあり例年より1週間遅らせてプール開きを行いました。梅雨の時期を少しでも避けて、暑くなってからと思い1週間ずらしましたが、先週から6月とは思えない猛暑になってしまい、予定通りプールの授業が行えるか心配です。本校では、児童の安全のために常に屋外で熱中症指数



(WBGT)を測定しています。数値が31を超えたときは、教育委員会の指導で、エアコンの入った場所以外ではすべての活動が行えなくなります。晴れていてもプールが中止になることがありますのでご理解ください。

また、今年度よりプールサイドのコンクリートが高熱になって児童の足の裏がやけどしないようにマットを購入するとともに、プール開始前には先生方がホースで水を撒いて行うこととしています。子どもたちの安全を第一にプール学習を行っていきたいと思いますのでご家庭でもお子様の体調管理やプールカードの記入などよろしくお願いします。

昨日より全市一斉のプール学習中止となっています。市内の学校でプール学習後、手足のしびれや腹痛のために25人が救急搬送されたことによります。原因が解明できておらず、外的要因(誰かが薬品等を投入した等)を排除できないことから原因が解明されるまでの緊急措置です。ご理解をお願いします。

交通安全について

令和7年6月18日(水)に北九州市の学校の生徒が走行中の乗用車と出会い頭に衝突して大けがを負う事故が発生しています。本校でも、6月6日(金)の下校中に則松6丁目の横断歩道で、横断歩道上に車が渋滞していたことから車の間を抜けて横断歩道を渡ろうとしたところ、反対車線を走行していた乗用車に接触するという事故が起きています。幸い大事には至りませんでしたが、とてもあぶない状況でした。本校の通学路は交通量が多い割には、道幅が狭く危険なところが多くあります。昨今、登下校中の小学生に車が突っ込むという事案も何度も発生しています。ご家庭でも道路や踏切を横断する際は、必ず左右を確認することや歩行の際は、歩道や路側帯などの定められた場所を歩くことなどを今一度お子様とご確認ください。

カタールに行ってきました

5月24日(土)から1週間の日程でカタールに行ってきました。カタールは中東のアラビア半島にある小さな国で首都のドーハは、サッカーの「ドーハの悲劇」で有名になったところです。今回は私が福岡県卓球協会の理事長を務めていることもあり、卓球の世界選手権を福岡県に誘致するために福岡県の大曲副知事と一緒にカタールで行われていた世界選手権の後に行われる国際卓球連盟の総会に参加しました。誘致に立候補していたのは福岡とイタリアのミラノで、総会の場でそれぞれが最終プレゼンテーションを行いました。その後の投票の結果、福岡が選ばれ、2028年の世界選手権の福岡開催が決定しました。この機会にカタールについて少しご紹介します。

(裏面へつづく)



カタールまでは日本の羽田空港から12時間30分かかりました。カタールは石油や天然ガスの産出が多く、世界で最も裕福な国の一つです。面積は11427km²で福岡県(5000km²)の2倍超、人口は400万人程度で福岡県(500万人)より少なく、カタール人はそのうちの60万人程度で、残りはインドを中心として南アジアからの移住者がほとんどです。昔は漁業と真珠取りが産業の中心だったそうですが、1940年代に石油が見つかり、石油と天然ガスの産出が始まって急速に近代化が進みました。石油と天然ガスのおかげで、カタール人には所得税がありませんし、教育費、医療費、電気代、電話代も無料です。大学を卒業すると国から家を建てる土地と費用がもらえるそうです。治安はよく街中いたるところに監視カメラがついていて、スピード違反であっても必ず後から罰金の納付書が送られてくるそうです。

しかしながら気候は過酷で基本的に砂漠気候です。雨は年間40mm(日本の梅雨では1時間に降る量)ほどしか降りませんし、私が行っている間、毎日外は45℃でした。電気代がタダだからかもしれませんが室内はどこもエアコンが17℃に設定しており、上着がないと寒いくらいでした。ただ室内から一歩外に出ると、ドライヤーの熱風がずっと顔に吹き付けられているような感じで息苦しいほどでした。日差しも強く、素肌を露出していると肌の表面がすぐに熱くなります。長袖とサングラスは必須です。

食事は基本ホテルでしたのでカタール料理は一度しか食べませんでしたが、主食はホブスといわれるインドのナンをもう少し乾燥させた薄パンで、野菜や豆で作ったペースト状のソースをホブスですくって食べます。また一時期オスマントルコの支配を受けていたことからトルコ料理のケバブ(串焼き)もたくさん食べられています。私もおいしくいただきました。

服装については、民族衣装は、男性はイガールと呼ばれる二重の輪で留めたガトラという四角い白い布で頭を覆い、トーブといわれる首から足首までである白色の長袖を着ます。女性はナカブという布で顔を覆い、アパーヤと呼ばれる真っ黒なローブを着ますが、外国からの労働者が多いためか街中ではそのような衣装を着ている人はほとんど見かけません。総会が行われたホテルでは民族衣装を身に着けている人を数多く目にしました。

街には高層ビルが林立し、主要な道路はとても広く片側4車線から6車線あります。日本の高速道路のように快適ですがもちろん無料です。車は圧倒的に日本車が多く、トヨタ、日産、いすゞが当たり前のようになっています。中でもランドクルーザーが人気のようです。

また、水不足のカタールでは日本の技術によって海水を真水に変えて生活用水としているらしく車や水のおかげで日本とカタールは良好な関係を築いていると感じました。私にとって初めてイスラム文化圏への訪問でしたが大変興味深いものでした。子どもたちにも機会があれば話をしてみたいと思っています。

